

交通安全だより第10号

I. 10月の安全運転管理について

1. 夜間の交通事故防止

～帰社時の運転のポイント～

これからの時期は帰社する時間が薄暮・夜間に掛かる場合が多くなります。この時間帯は周囲が見えにくくなるうえに、車や歩行者等の交通量が増え、運転者が早く帰りたいという先急ぎの運転をすることから事故が多発する傾向にあります。危険を見落とさないためにも早めのライト点灯や、会社の近くになると気持ちが緩み油断から事故を起こしやすいので、気を引き締めて運転するように心がけましょう。



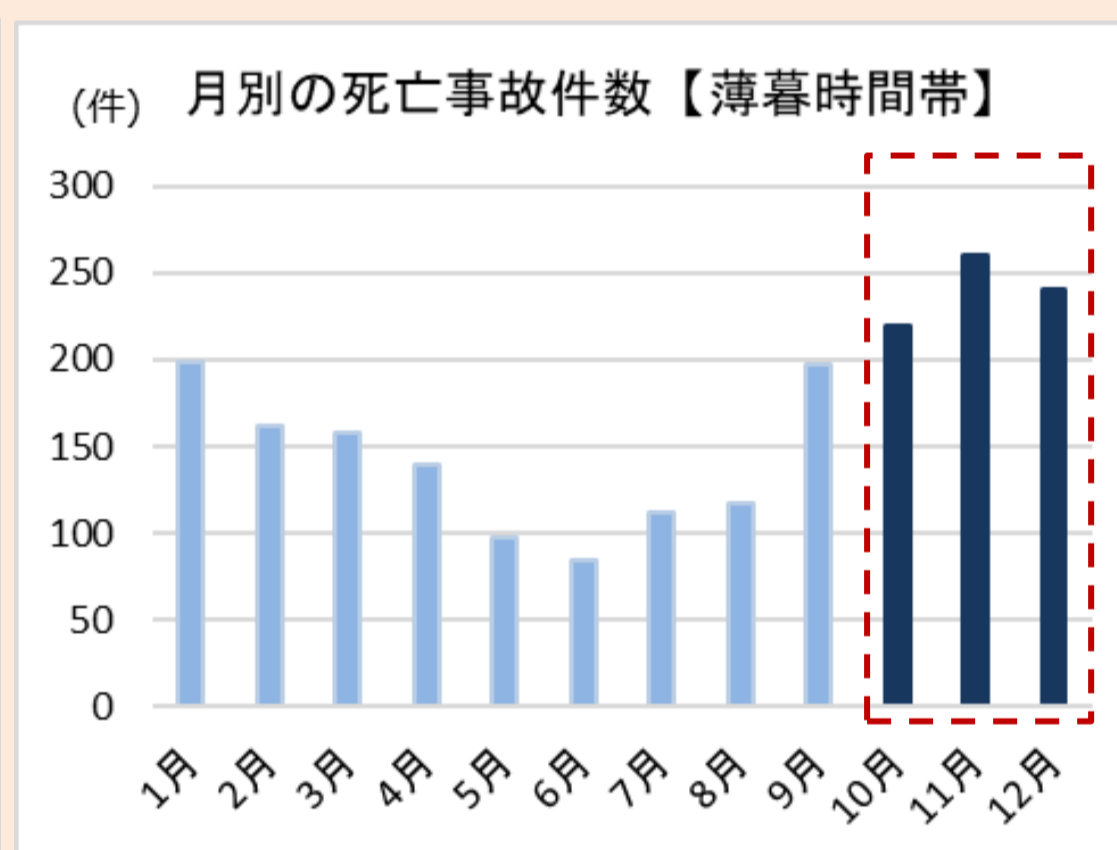
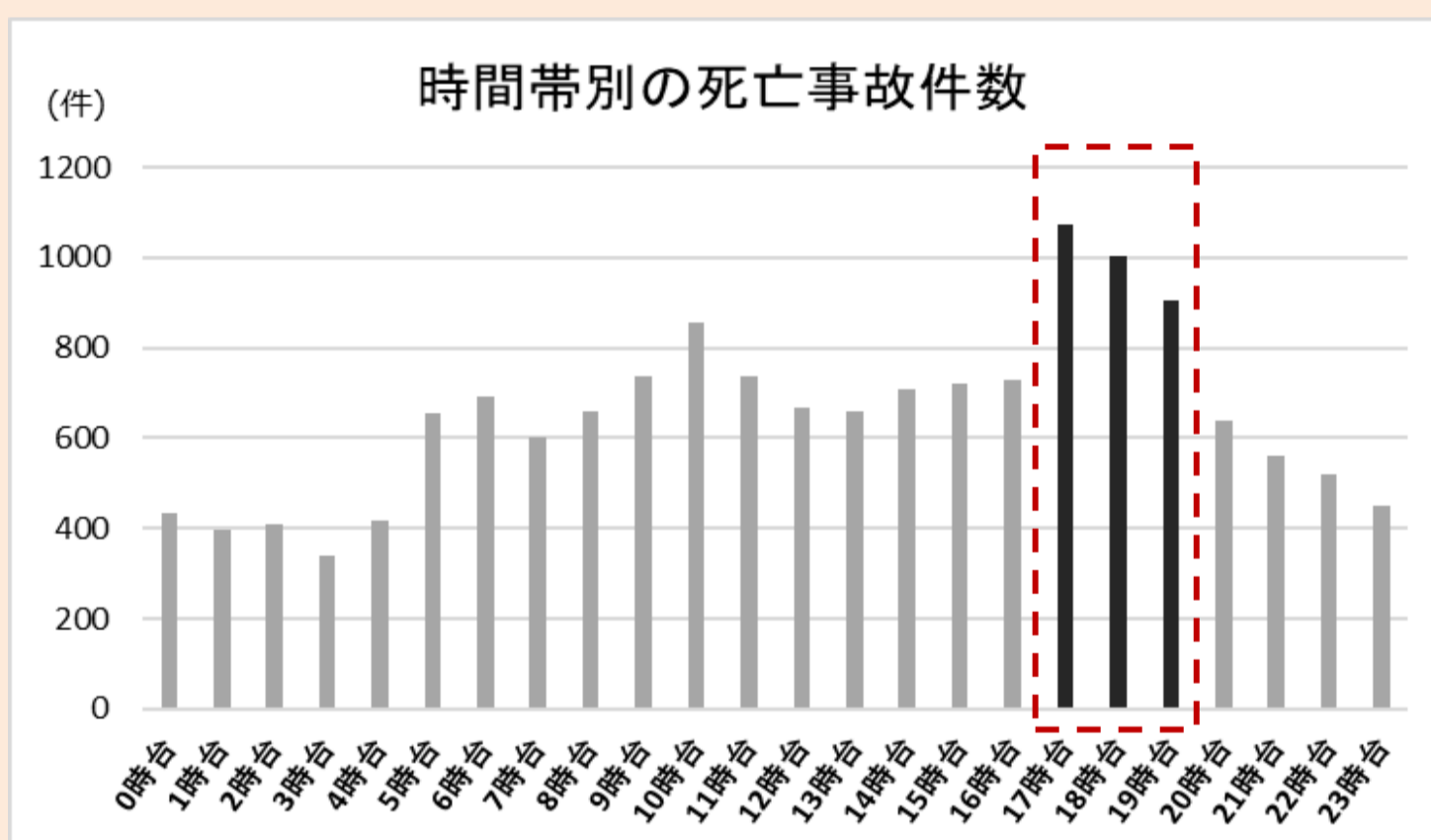
～暗がりには注意を向けましょう～

ライトの照射範囲は限られています。運転者は見える範囲に注意を払いますが、見えない場所には危険がないと思いがちです。しかし、危険は見えないところに潜んでいます。例えば、ヘッドライトは正面を向いているために、交差点の左折時には左からの横断者、右折時には右からの横断者を照らさないことがあり、暗がりから現れる横断者に気づくことが遅れる場合があります。暗がりには注意の目を向けることを意識しましょう。

～車両点検の実施～

車両点検で見落としがちなのは、ヘッドライトやブレーキランプの不具合です。ライトやランプは、点検時の確認が難しく、他の人から指摘されて初めて気づくことが多く、危険を見落としたり、他の車から追突されたりするおそれがあります。そこで、全車一斉の車両点検を実施し、二人一組になってランプ類の点灯具合を確認しましょう。不具合が見つかった車は運行中止とし、速やかに整備することを徹底してください。

例年、10月～12月にかけて、薄暮・夜間における交通死亡事故が多く発生しています。警察庁の発表によると平成29年～令和3年までの5年間にわたる死亡事故を時間帯別に見ると、日没時刻と重なる17時台～19時台に多く発生しています。薄暮時間帯とは、日没時刻の前後1時間を言います。この時間帯は自動車と歩行者が衝突する事故が最も多く、事故類型別に見ると横断中が9割を占めています。横断場所の内訳では、横断歩道以外での事故が約8割となっており、歩行者の約7割に法令違反があります。つまり、横断歩道以外を横断してきた歩行者と自動車とが衝突する事故が圧倒的に多いということが分かります。事故の見落としの要因のひとつが視認性の悪化です。こうしたことからライトの点灯が重要です。



2. 早めのライト点灯と上向きライトで危険の早期発見に努めよう

道路交通法では、夜間にはヘッドライトを点灯しなければならないと定められていますが、実際は、日没後に点灯している車は約2割というデータがあります（JAF調べ）。夜間の事故の多くが視認性の悪化による危険の見落としや発見の遅れが原因です。危険を早く発見するため、日没30分前にはライト点灯を徹底しましょう。また、ライトはより遠くを照射できる上向きライトを基本に走行しましょう。下向きライトは対向車とのすれ違い時や明るい都市部を走行するときに使用するなど、こまめに切り替えて下さい。ライトを上手に活用することが夜間の安全運転の基本です。

知っておきたい交通安全用語：蒸発現象

夜間、自車と対向車のライトが交わった地点にいる横断歩行者が見えなくなることがあります。これが蒸発現象と言われるものです。歩行者はヘッドライトに照らされていると思い込んで横断しようとするため、衝突する可能性があります。とくに、雨が降るとライトの光が濡れた路面に乱反射して、歩行者の姿がいつそう見えにくくなります。なお、蒸発現象は上向きライトの方が発生しやすいことから、すれ違い時には下向きライトに切り替え、歩行者の横断を予測し、速度を落として走行しましょう。

II. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年10月某日 午後1時30分頃 天候：晴れ

◆事故の当事者

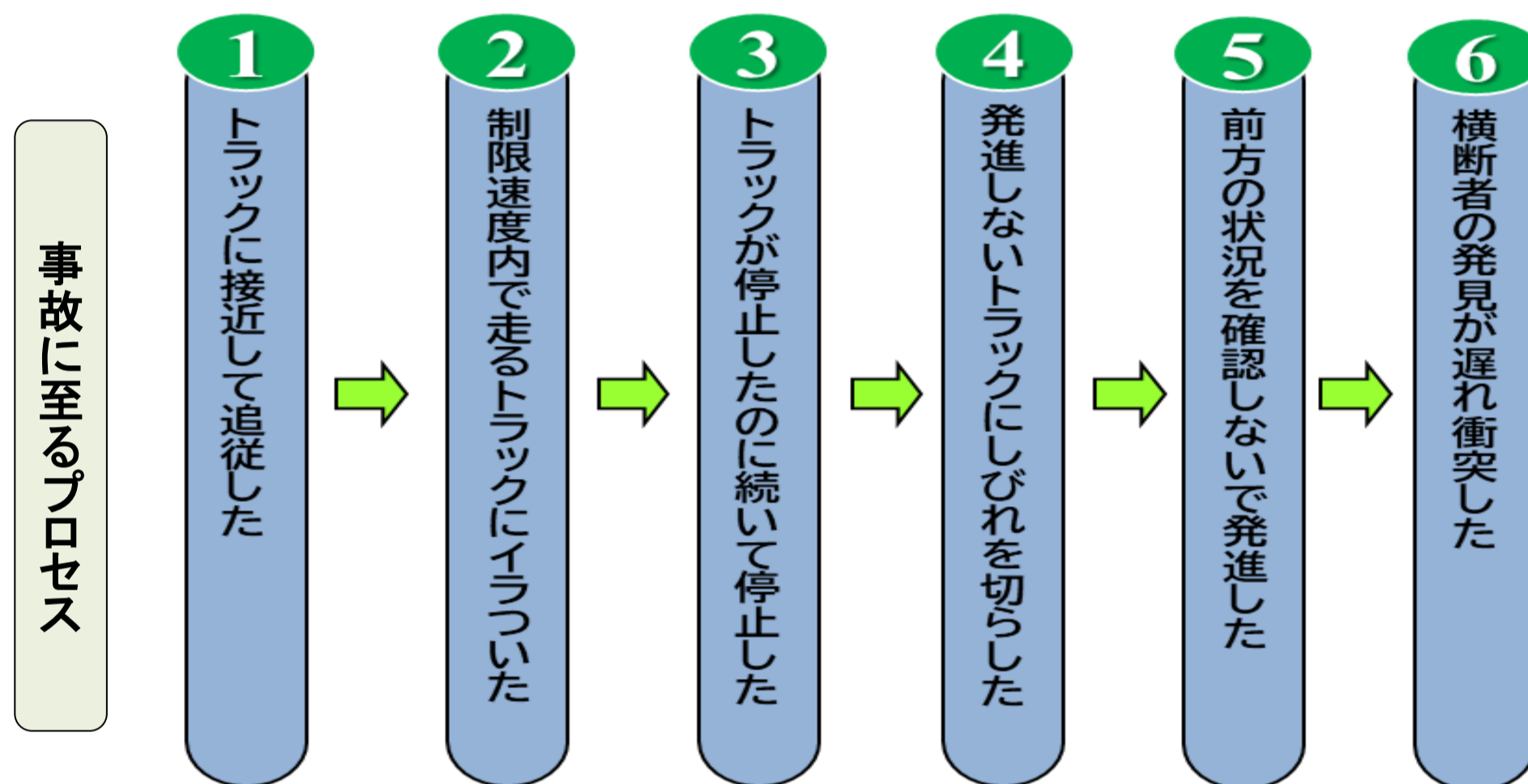
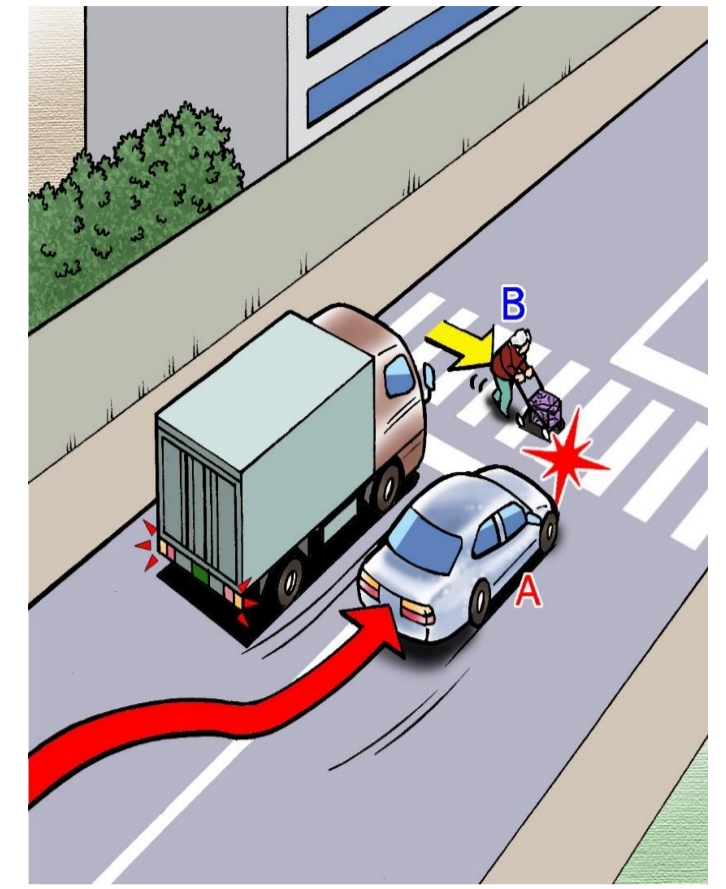
A / 男性41歳 乗用車運転 B / 女性78歳 歩行

◆事故の発生概要

Aさんは、住宅設備機器販売会社の営業マンとして、毎日、社有車で得意先を回っています。

事故を起こした日は、午前中にある得意先で時間をとられ、会社から指示されている1日の訪問件数を達成することが難しくなっていました。昼食を急いでとり、次の訪問先に向けてスピードを出して走行していたところ、前を走っていた普通トラックに追いつきました。普通トラックはほぼ制限速度で走っていて、Aさんは「速く走ってくれないかな」と思いながら接近して追従していました。しばらくして、トラックが急に減速して停止したため、Aさんも続いて停止しました。トラックが停止したままなかなか発進しないため、Aさんは、しびれを切らして発進し、トラックの右側方を進行したところ、横断歩道を渡ってきたBさんに気づき、とっさに急ブレーキをかけましたが、加速状態であったことから間に合わずBさんと衝突しました。

事故にあったBさんは足が悪く、ゆっくりとしか歩くことができず、トラックの前をやっと通過したところ、進行してきたAさんの車に撥ねられてしまいました。



事故の原因と背後要因

- ① 午後から訪問件数が多く、少し急いでいた。
- ② トラックに接近して追従・停止したため、前方に横断歩道があることに気づかなかった。
- ③ 前方の状況がわからないまま、トラックの側方を通過しようとした。
- ④ 横断してくる人に気づくのが遅れ、加速状態であったため、止まることができなかった。

類似事故を起こさないために運転者の対策は

●大型車に続いて走行・停止するときは車間距離を十分にとる

大型車の後方を追従する場合は、車間距離を十分にとり、前方の状況を早め早めにチェックする。

●なぜ発進しないのかを考え、横断歩道の手前で停止する

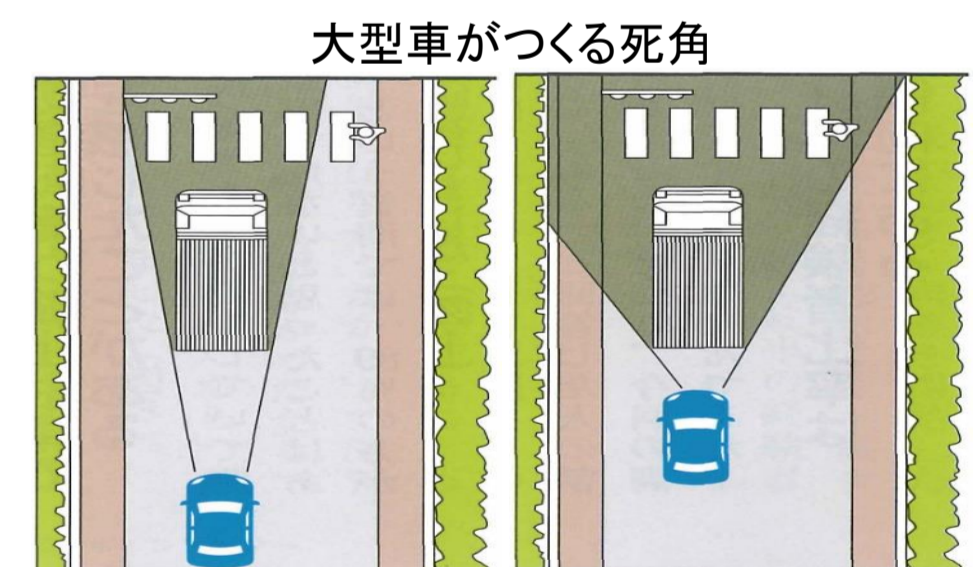
横断歩道手前の停止車両より前方に出る際は必ず一時停止して安全を確認する。

また、前車がなぜ停止したのかを考え、「停止→死角→横断する歩行者」という予測を立てる習慣をつける。

ワンポイントアドバイス

大型車がつくる死角の危険

大型車は車体が大きく、周囲に大きな死角をつくる。たとえば、大型車に接近追従すると、前方の信号機や横断歩道が見えないことがある。また、万一、大型車が横断者に気づいて急ブレーキを踏んだら追突する危険もある。同様に、交差点を右折するとき、右折待ちの大型車がいる場合、対向車線を見通すことができず、安易に右折すると対向直進車と衝突するおそれがある。こうした大型車がつくる死角とそこに潜む危険を予測した運転が求められる。



III. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	帰宅途中	どこで	見通しの良い信号機のない直線道路
何をしている時に	前車との車間距離を十分に取りずに走行していた時		
どうなった	前車が左ウィンカーを出してすぐにブレーキを踏み左折したため、接触しそうになりヒヤリとした		

以上